

立ち上がる 60

地場企業

東日本大震災の津波で本社兼第1工場が被災した大槌町吉里吉里の金属加工業「山岸産業」(山岸一社長)は今年1月、元の場所に再建し、再出発を果たした。工場から響く大型機械の稼働音が頼もしい。山岸千鶴子専務(53)は「本当にうれしい。お世話になった皆さんの顔が浮かび、何と云ったらいいのか」と目を潤ませる。

同社は1996年に従業員6人で創業。当初はアルミプレートの加工だけだったが、特殊鋼やステンレスのプレート製品も出荷できるようにになり、取引先を拡大。2006年に

山岸産業(大槌)

新製品の開発に注力



従来の約9倍の広さを持つ現在の本社兼第1工場が完成し、翌07年6月期は年商3億6千万円まで成長した。

しかし、11年3月11日。順調に稼働していた本社兼第1工場を大津波が襲った。海岸から約300mしか離れていない工場は鉄骨だけを残し、無残な姿をさらした。幸い家族や従業員は全員無事だったが、被害額は3億円を超えた。

山岸専務は所用で宮古市の中心街にいた。



再開したばかりの新工場で金属加工作業に励む従業員

山手の道路を通過して大槌の本社は一面ががれ藪に向かおうとしたときで覆われ、屋根にはが、途中で地域住民らに制止され、山田町豊間根の公民館に2日間とどまった。同13日に被災を免れた自宅に戻り、出張先の東京から戻った夫の山岸社長らと涙の再会を果たした。

震災から5日目に訪

山岸産業 1996年創業。資本金300万円。従業員12人。本社・第1工場は大槌町吉里吉里30の60の1。同町の第2工場と花巻工場、東京支店の4拠点で営業。特殊鋼、非鉄金属のプレート製造加工・販売が主力。0193・431055。

《みんな一緒に再出発しますー!》「お世話になった皆さん一人一人に報告するつもりで日々の仕事に励みます」と語る山岸千鶴子専務



声が相次いだ。4分の1まで落ち込んだものの、電動アシスト三輪自転車などの新製品を開発して社業発展を期す。「前に進むことが支援してくれた。国、県のグループ補助金の4次募集で採択され工場を再建。昨年11月に完成した。専務。雇用確保で地域再興の原動力になる構えだ。

売上げは震災前の(毎週水曜日に掲載)